

一般社団法人 日本MOT振興協会
第1回ソーシャル・デザイン委員会 討議内容

(原則として敬称略)

1. 委員会の概要

◇日時 2017年9月11日(月)午後零時～2時

◇場所 日本記者クラブ 10階 シルバールーム

◇出席者 講師・飯沼瑞穂(主任研究員、東京工科大学メディア学部准教授)、特別ゲスト・白井克彦(会長、早稲田大学名誉顧問(前総長))、特別ゲスト・相磯秀夫(最高顧問、東京工科大学理事、慶應義塾大学名誉教授)、千代倉弘明(委員長、東京工科大学メディア学部教授)、丸山剛司(副委員長、中央大学理工学部特任教授、東京工業大学副学長)、橋田忠明(副会長兼専務理事、日本経済新聞社・社友)、水谷衣里(主任研究員、㈱風とつばさ代表取締役・コンサルタント)、松橋崇史(拓殖大学商学部准教授)、野口真理子(㈱博報堂テーマとビジネス開発局)、大高香世(㈱Voice Vision 社長)、田中幸子(事務局員)、古田詩央莉(研究員、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士課程)

◇提出書類

(1) 第1回ソーシャル・デザイン委員会 議事次第・出席者名簿

(2) 講演資料:「ソーシャル・デザインの現状と将来について」

講師・飯沼瑞穂(主任研究員、東京工科大学メディア学部准教授)氏

(3) 第12回政策首脳懇談会資料

(4) 第3回 MOT 講演会案内

(5) MOT 活動報告 Vol.45

2. 委員会の討議内容

橋田忠明副会長兼専務理事から開会の挨拶の後、事務局から報告事項として、9月1日に第12回政策首脳懇談会を開催し、経団連会長・東レ㈱相談役の榊原定征氏が講演したこと、10月4日(水)に開催予定の「世界に冠たる日本の独自技術」を統一テーマとする第3回 MOT 講演会の案内、会報「MOT 活動報告」(Vol.45)についての説明があった。

3. 特別ゲストの白井克彦会長、相磯秀夫最高顧問の挨拶

◆ 白井克彦会長

日本や地域に様々な問題があるが、どのような観点のものが取り上げられるのか楽しみである。それぞれの立場で色々なことができると思う。

◆ 相磯秀夫最高顧問

私にはソーシャル・デザインという命名が思いつかず、素晴らしいと思った。だからこそ、私の提案としては、新聞の解説などで取り上げてもらい、PR すべきだ。そうすれば、他の学問領域の人や、世の中への認知も広がる。ここにいるメンバーは諸学の横断的立場であると感じたので、色々な人を巻き込んでやってほしいと思う。

3. 飯沼瑞穂氏の講演内容

- ・ 当委員会での「ソーシャル・デザイン」の定義は「持続可能な社会の実現に向けたアイデアや仕組み、それを支える過程や技術、新しいビジネス、さらには社会のシステムのデザイン」であるとする。ここでのデザインは、「課題解決のために意味ある秩序状態を作り出すこと」と広義な意味とする。
- ・ 持続可能な開発は、「将来の世代の欲求を満たしつつ、現代の世代の欲求も満足させるような開発」、持続可能な社会は「持続可能な開発が行われ持続可能性を持った社会」を指す。この考え方をゴールに見据えつつ、新しいアイデアや技術がどういったものであるべきかを考えていきたい。
- ・ 国連が採択した「持続可能な開発のためのアジェンダ 2030」では、持続可能な開発をテーマに 17 項目挙げられている。

日本も無関係ではなく、日本社会が抱えている様々な問題とグローバルな課題目標が一致しているものも多くある。そのため、グローバルな目標を見据えつつ、国内の問題を解決する必要がある。

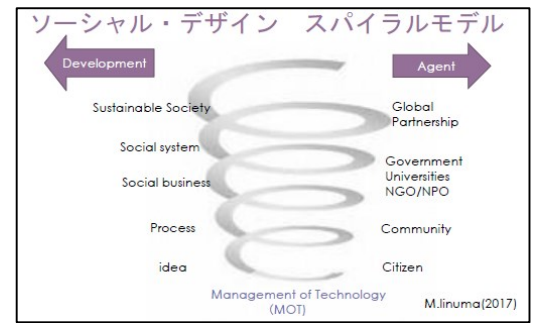


図 1: スパイラルモデル



図 2: ソーシャル・デザインのキーワード

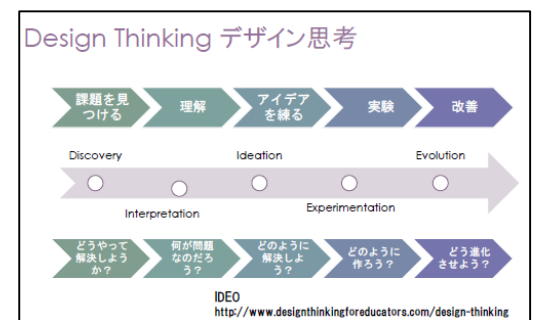


図 3: デザイン思考

- こういった社会問題を解決するにあたって重要なことは、非常に社会問題が複雑化していることを認識する。そしてその解決のためには何らかのパラダイムシフトが必要である。
- 私達が目指すソーシャル・デザインの定義の中で考えていきたいのは、「持続的な社会の実現に向けた連携」、「産・学・官・非営利団体・市民との連携(グローバルコンパクト)」、「個人を軸にした連携の可能性」。また、これまでの問題を認識する上で、問題を無くそうというアプローチではなく、問題を認識し理解はするが、それとは別に「前向き、かつ斬新なアイデアの創出とその実現化に向けた新しいあり方」の模索をする。
- スパイラルモデル(図 1)という、個人もしくはアイデアの力を借りて、NGO やコミュニティ、政府、大学をどのように連携持たせて、新しいプロセスの創出や新しいソーシャルビジネスに繋げ、さらにはソーシャルシステムの変革まで持っていくか。その先に、持続可能な社会として、グローバルでつながる世界があるのではないか。
- 従来のソーシャル・デザインの定義は、持続可能な社会にしていく仕組みをどうするのかイメージされていない定義が多い。
- ソーシャル・デザインのアイデアの大元になったヴィクター・パパネックは「デザインは意味ある秩序状態を作り出すために意識的に努力することである。デザイナーの本来の仕事は諸問題を解決することである」と述べている。
- 伊勢神宮で 20 年に 1 度行われる式年遷宮は、全国各地の神社への木材のリサイクルや、神殿の建て直しのための木材の保護、作り直す際に技術の継承が行われる。これが日本に 1300 年続く持続可能なシステムである。
- ソーシャル・デザインを考える上でのキーワードとして図 2 のキーワードを挙げる。
- ソーシャル・デザイン成功事例としては、フェアトレード運動がある。その中の一つのフェアトレード・タウンはイギリスのガースタン市の市民数名が発案したもので、2017 年現在、世界 23 カ国、1979 都市に広がっている。
- 大学教育でソーシャル・デザインを教えることは、社会変革の原動力として大学機関が機能することにつながるのではないか。ここで一人一人の学生がデザイン思考(図 3)を身につけ、社会課題の理解と解決や新しい在り方の模索に向けた行動力が身につくカリキュラムを大学側が提供するのが重要ではないか。
- 今後の委員会活動の方針としては、「斬新なアイデアによる、持続可能で新しい社会の実現のためのデザイン」とする。2 ヶ月ごとの研究会を今月からスタートし、1 年ごとのシンポジウムを来年から開催したい。また、委員会の活動を中心に書籍を作るのもひとつの案である。

4.意見交換

- 社会問題の解決といった時に、世の中の合意形成が難しくなっている。
- ソーシャル・デザインという言葉聞いた時に、色々な方がどう解釈するかという問題があるので、最初に問題をはっきりさせて議論するのがいいと思う。
- 従来型の産官学連携をしなくても、アイデアがある人が、無料で使えるプラットフォームを使って、社会的起業ができるようになっている。一人一人が考える時代であり、一つのアイデアが大きな問題を解決するかもしれない。個人の可能性を重要視したい。

- ・ 10 年ぐらい前は、個人は情報を受けていたが、今は SNS 等を利用し個人が情報まで発信していて、重装備された個人になっている。それを意識しているのがソーシャル・デザインなのではないか。
- ・ 技術を社会政策へどうつなげていくかが大事ではないか。実験的な取り組みとして今行われているのは、がん検診率の向上のために AI を使って、行動科学的にがん検診を勧める方法を変える取り組みがある。
- ・ ソーシャル・イノベーションで話をするとは結果的に起こったことがどうだったのかに議論が収束するが、どう変えていくかの議論まで行われていくのが、まさにソーシャル・デザインであると思う。最終的に社会政策にどう落とし込むのかは、ソーシャル・イノベーションなどでは余り議論されていない気がする。
- ・ 広告の世界ですら、社会課題を解決するようになってきている。今年の広告祭のグランプリやゴールド賞を取った作品のほとんどが社会課題をクリエイティブの力で解決するものであった。
- ・ ファシリテーションの力もソーシャル・デザインの解決に結びつくトリガーになるのではないか。ファシリテーションの力で、多数決ではない世界を目指している。
- ・ 経済はサステナブルにするための仕組みの一つであり、商業的に成功することは、持続可能な仕組みの成功であると思っている。ソーシャル・デザインが何か社会貢献的な仕組みと捉えられるのではなく、経済を回す手法として捉えられると、MOT 中での元々の考えに近くなるのではないかと思う。
- ・ ソーシャルビジネスという言葉はなくなるのではないか。ソーシャルなことはして当たり前になる。
- ・ 大学も大きな変革を求められるタイミングである。日本はそのあたりが遅れている。
- ・ イギリスを見直すべきではないか。女性の首相の誕生もイギリスだった。アメリカをこれまでは意識をして日本は進んできたが、イギリスも見直すべきだと思う。
- ・ デザイン思考のところを見ていて思うが、課題を見つけるというところが、学生に話を聞いていると安易に見つけているような気がする。そしてその範囲で答えを出しているような気がする。しかし社会課題は複雑で入り組んでいる。
- ・ フェアトレードはビジネスにとっても非常に重要になる。うまく両立する仕組みが改めて必要であると感じた。
- ・ 日本の多くの実証事業が、お金がある時はうまくいっているが、お金が無くなるとそれで終わってしまうケースが余りにも多い。そうじゃない仕組みに変えないとソーシャル・イノベーションは起こらない。

5. 次回の会合は、2017 年 11 月 21 日(火) 12:00～14:00 (於)日本記者クラブ 9 階大会議室で、演題は「ソーシャル・デザインの最前線～日本の実践から考える、現在と未来～」、講師は、(株)風とつばさ代表取締役／コンサルタントの水谷衣里(みずたに・えり)氏。